

# 「新版えりもの植物」の追加削除事項およびえりも町内の貴重植物

三浦 忠雄<sup>1)</sup>

## はじめに

1999年(平成11年)3月「新版えりもの植物」が発行され、2004年(平成14年)3月で5年が経過する。

この間、筆者のえりも町通いは現在も継続しており、えりも町郷土資料館N42°の会、えりも花ファンクラブなどの人々との交流を持ちながら、毎年10回程度の調査を実施してきた。

この中で、未同定であった標本類の再調査も含め、えりも町内において新しく確認できた植物は、ウスユキマンネングサ、カキラン、エゾイヌノヒゲなど10種ほどになり、分布の可能性の高い種についても下記に記述する。

また、えりも町内の貴重な植物についてまとめた。

さらに前出の「新版えりもの植物」の訂正・削除について記す。

## I. 新確認の植物

### 1) サワトウガラシ (ゴマノハグサ科)

*Deinostema violaceum* (Maxim.) Yamazaki

1998年8月確認。確認地：百人浜水湿地。分布：北海道(胆振のみ)、本州。特徴：高さ5~20cm(百人浜では5cm内外)、花冠は紅紫色、茎の中部に小さな閉鎖花をつける。

### 2) エゾイヌノヒゲ (ホシクサ科)

*Eriocaulon perplexum* Satake et Hara

2002年6月確認。確認地：百人浜水湿地。

分布：アポイ岳、胆振(勇払原野) <北海道固有種> 特徴：花期8月

### 3) カキラン (ラン科)

*Epipactis thunbergii* A. Gray

2001年6月確認。日高管内で初認(駒井千恵子)。確認地：えりも町。特徴：高さ30~70cm、花は黄褐色。

### 4) ヨーロッパタイトゴメ (ベンケイソウ科)

(オウシュウマンネングサ)

*Sedum acre* Linn.

1998年7月確認。確認地：襟裳岬。分布：帰化植物(ヨーロッパ中部~小アジア原産、日高管内では静内町市街地に多い。大正時代に観賞用として栽培したものが逸出。

### 5) ウスユキマンネングサ (ベンケイソウ科)

*Sedum hispanicum* Linn.

1997年7月確認。確認地：襟裳岬(油駒) 分布：帰化植物(ヨーロッパ・小アジア・北アフリカ原産)

### 6) モミジバヒメオドリコソウ (シソ科)

(キレハヒメオドリコソウ)

*Lamium hybridum* Vill.

1997年7月確認。確認地：庶野(桜岡)。分布：帰化植物(ヨーロッパ原産)

### 7) コテングクワガタ (ゴマノハグサ科)

*Veronica serpyllifolia* L. subsp. *serpyllifolia*

1996年7月確認。確認地：目黒。分布：日

1) 〒056-0017 北海道静内町御幸町

高管内では静内町市街地。帰化植物（ヨーロッパ原産）。

8) モイワラン（ラン科）

2002年7月確認。確認地：上歌別。特徴：花期に常緑葉のないサイハイランで、札幌の藻岩山で初めて確認されたといわれる。

9) クロビイタヤ（カエデ科）

*Acer miyabei* Maxim.

2003年確認。確認地：本町（沢町）。分布：北海道（日高、胆振、渡島、十勝、石狩、空知、釧路）、本州（長野以北）＜日本固有種＞

10) オニハマダイコン（アブラナ科）

*Cakile edentula* (Bigel.) Hooker.

2002年確認。確認地：百人浜。特徴：帰化植物。海岸の砂地に生える一年生の帰化植物。ヨーロッパ北部の海岸に自生。

II. 確認不十分な植物。

1) タヌキモ＜確認不十分＞

*Utricularia australis* R.Br.L.

2) ヒダカアザミ

＜確認不十分であるが分布の可能性大＞

特徴：チシマアザミによく似るが、花の色はワインレッド、葉は分裂しない。花期に根生葉がないなど。

III. えりも町の植生の多様性と貴重な植物について

えりも町の植物の概要は、すでに「新版えりもの植物」出版実行員会の植物調査によってほぼ明らかにされたが、生態系は時の流れとともに少しずつ遷移することもあり、北海道の所々でその土地に以前生息していなかった植物が新しく確認されている。

えりも町の自然の大部分は天然林を中心とした自

然植生が占めており、黄金道路海蝕崖の治山工事・百人浜緑化事業（クロマツ林の育成）を除いて、ほぼ豊かな生態系が保持されている。

また、えりも町には、襟裳岬海蝕、百人浜、庶野、豊似岳、豊似湖、黄金道路海蝕崖が主に日高山脈襟裳国定公園の範囲になっているが、貴重な植物が多く見られるニカンベツ川流域（カンラン岩地の植物）、ルチシ岳周辺は、残念ながら同国定公園に指定されていない。

現在、日本列島には約8,000種（亜種、変種を含む）以上の維管束植物が生息しているといわれている。狭い国土にこれだけ多様な植物が確認されるところは世界にも類がなく、植物の生育に最適な国土に多様な自然があり、人々が自然を大切にしてきた証拠である。

えりも町の維管束植物（シダ植物、裸子植物、被子植物）は、日本全体の約8分の1にあたる1,000種（亜種、変種、品種を含む）以上を記録しており、町村単位としてはずば抜けた密度の高い多様な植生を保存していることになり、えりも町の誇り高い自然遺産となっている。

以上のことから、えりも町の貴重な植物についてまとめることにする。

1> えりも町に生息している固有種

えりも町には22種の固有種（亜種、変種、品種を含む）が生息している（表1.）が、その中には日高山脈固有種として、えりも町庶野にのみに産するヒダカミツバツツジ、また、南部日高山脈（様似・えりも・十勝）にのみ産するヒダカイワザクラが生息している。

固有種ではないが、ヒダカミセバヤは日本においては日高（えりも・様似）を中心に十勝・釧路の海

表1. えりも町に生息している固有種

固有種の種類	種名
日高山脈 固有種	ヒダカミツバツツジ ヒダカイワザクラ
日高山脈 固有変種	ヒダカトリカブト トカチトウキ ヒダカハナシノブ ヒダカアザミ (分布可能性大)
日高山脈 固有品種	ヒダカトウヒレン サマニオトギリ
北海道 固有種	エゾタカネニガナ ホソバトウキ エゾイヌノヒゲ ナガバカラマツ (サマニカラマツ) ホソバノコガネサイコ (エゾサイコ) モミジバショウマ
北海道 固有変種	エゾノジャニンジン エゾキシミレ キレハヤマブキショウマ
北海道 固有品種	ケエゾキシミレ クロビイタヤ
その他：雑種 (産地：胆振 ・日高)	シラオイエンレイソウ (オオバナノエンレイソウ とミヤマエンレイソウの 雑種)

蝕崖に分布し、世界的にはヒマラヤ・中央アジア・モンゴル・アルタイで知られており、分布上も重要である。

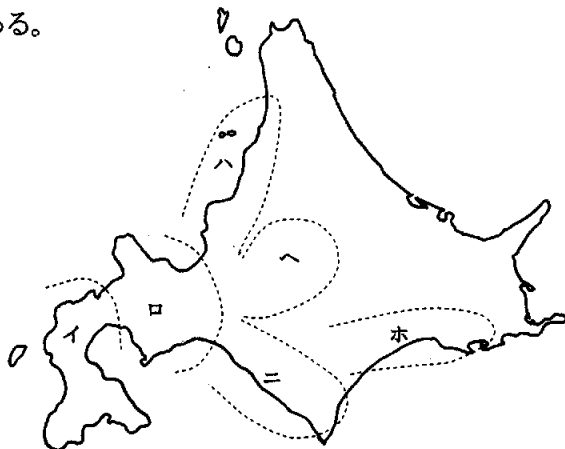


図1. 北海道における温帯植物の分布型

(渡部 1960, 伊藤浩司 1982 より引用)

- イ. ブナ型    ロ. トチノキ型    ハ. ドクウツギ型
- ニ. クリ型    ホ. アカシデ型    ヘ. タニウツギ型

## 2 > 北海道へ北上してきた温帯植物の分布型

渡辺 (1960) は、北海道における温帯植物の分布型を6通りに分類した (図1.)。クリ型分布 (太平洋沿岸を東進し、日高山脈と襟裳岬を境界線として分布限界となっている植物) は、襟裳岬が東南端にあたる。クリ型分布植物の中では隔離分布 (生息地が離れている不連続分布) しているコゴメウツギやハマゼリを確認している。また、トチノキ型分布 (黒松内低地帯より北東に進み、石狩低丘陵帯で止まる) のノイバラやムラサキシキブなども確認しており、えりも町目黒が分布限界となっている。

### 1) クリ型分布の植物

クリ・ヤシヤゼンマイ・クサギ・アオハダ・ハマゼリ・サンショウ・コゴメウツギ・ヒダカミツバツツジ・カナビキソウ・ヤハズソウ・モミジガサ・クマガイソウ・ツルボ・サワトウガラシなど。

うち隔離分布：ヤシヤゼンマイ・ハマゼリ・コゴメウツギ・サワトウガラシ・ケシヨウヤナギ (日高・十勝・網走)

### 2) トチノキ型分布の植物

ウチワゴケ・ノイバラ・イボタノキ・アキグミ・ムラサキシノブなど。

## 3 > 絶滅危惧種指定の植物

最近の情報によると地球上のすべての生物は、すでに認識されている種 (約 40 万種) と未知の種を合わせると 300~3000 万種に及ぶと推測され、そのうち毎年 4 万種が絶滅しているともいわれている。

その原因の多くは人間の活動、各種開発行為による生息地の破壊や乱獲や採取などにより、絶滅の危機に直面している。環境省は種の多様性を保持し、人類の生存基盤である自然生態系を健全に保つこと

表2. えりも町内で確認されている絶滅危惧植物

環境省分類	植物種名	北海道分類
絶滅危惧ⅠA類 (CR) 5種	エダウチアカバナ：未確認標本あり ヒダカミツバツツジ ハマタイセイ：過去の記録のみ エゾイヌノヒゲ シラオイエンレイソウ	絶滅種 (Ex) 絶滅危機種 (Cr) 絶滅危惧種 (En) 希少種 (R) 未指定
絶滅危惧ⅠB類 (EN) 23種	ムラサキ：過去の記録のみ サルメンエビネ タカネヤハズハハコ <環境省未指定> コイチョウラン <環境省未指定> ヤマトキシソウ <環境省未指定> ナガバカラマツ (サマニカラマツ) ヒメアマナ モミジバショウマ (サルルショウマ) アポイヤマブキショウマ エゾゴゼンタチバナ：過去の記録のみ ベニバナシャクヤク エゾシモツケ クロビイタヤ ホソバノツルリンドウ シコタンキンボウゲ カイジントウ ムシャリンドウ：過去の記録のみ エゾヒョウタンボク チシマキンレイカ コモチミミコウモリ シコタンタンポポ セキショウイ エゾナミキシソウ	絶滅危惧種 (En) 絶滅危惧種 (En) 絶滅危惧種 (En) 絶滅危惧種 (En) 絶滅危惧種 (En) 絶滅危急種 (Vu) 絶滅危急種 (Vu) 希少種 (R) 希少種 (R) 希少種 (R) 未指定 未指定 未指定 未指定 未指定 未指定 未指定 未指定 未指定 未指定 未指定 未指定 未指定 未指定
絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 42種	クマガイソウ クシロワチガイソウ ヒダカミセバヤ ヒダカイワザクラ ヒメハッカ キキョウ トキシソウ クリンソウ フクジュソウ ミヤマビャクシン <環境省未指定> シラネアオイ <環境省未指定> カキラン <環境省未指定> ケショウヤナギ エゾノハナシノブ タヌキモ エゾタカネニガナ ミヤマハナシノブ ミズトンボ ヒメハナワラビ ノダイオウ タチハコベ エゾノジャニンジン コモチレンゲ ホザキシモツケ ホソバトウキ エゾムラサキツツジ ヤマジソ	絶滅危惧種 (En) 絶滅危急種 (Vu) 絶滅危急種 (Vu) 絶滅危急種 (Vu) 絶滅危急種 (Vu) 絶滅危急種 (Vu) 絶滅危急種 (Vu) 絶滅危急種 (Vu) 絶滅危急種 (Vu) 絶滅危急種 (Vu) 絶滅危急種 (Vu) 絶滅危急種 (Vu) 絶滅危急種 (Vu) 絶滅危急種 (Vu) 絶滅危急種 (Vu) 希少種 (R) 希少種 (R) 希少種 (R) 希少種 (R) 希少種 (R) 希少種 (R) 未指定 未指定 未指定 未指定 未指定 未指定 未指定 未指定 未指定

<p>絶滅危惧Ⅱ類 (VU)  42種</p>	<p>エゾミヤマクワガタ (エゾミヤマトラノオ) ベニバナヒョウタンボク ホロマンノコギリソウ (キタノコギリソウ) イワヨモギ ヒダカトウヒレン シバナ ホソバノシバナ タマミクリ ネムロスゲ エゾサワスゲ ウスイロスゲ オノエスゲ イトモ チャボカラマツ (アポイカラマツ) エゾハリスゲ</p>	<p>未指定 未指定 未指定 未指定 未指定 未指定 未指定 未指定 未指定 未指定 未指定 未指定 未指定 未指定 未指定 未指定 未指定 未指定 未指定</p>
<p>準絶滅危惧種 (NT)  17種</p>	<p>タチモ コケスギラン &lt;環境省未指定&gt; ハマハナヤスリ &lt;環境省未指定&gt; ヤシヤゼンマイ &lt;環境省未指定&gt; ウチワゴケ &lt;環境省未指定&gt; ヒダカトリカブト&lt;環境省未指定&gt; オクエゾサイシン&lt;環境省未指定&gt; ヤマネコノメソウ&lt;環境省未指定&gt; ナガボノアカワレモコウ &lt;環境省未指定&gt; エゾサイコ (ホソバノコガネサイコ) &lt;環境省未指定&gt; ムカゴニンジン &lt;環境省未指定&gt; イソスミレ (セナミスミレ) &lt;環境省未指定&gt; エゾオオサキクラソウ &lt;環境省未指定&gt; ハマウツボ &lt;環境省未指定&gt; コハマギク &lt;環境省未指定&gt; クロユリ &lt;環境省未指定&gt; アリドウシラン &lt;環境省未指定&gt;</p>	<p>希少種 (R) 希少種 (R) 希少種 (R) 希少種 (R) 希少種 (R) 希少種 (R) 希少種 (R) 希少種 (R) 希少種 (R) 希少種 (R) 希少種 (R) 希少種 (R) 希少種 (R) 希少種 (R) 希少種 (R) 希少種 (R) 希少種 (R) 希少種 (R)</p>

が必要不可欠であると認識している。このような中で、2000年(平成12年)「日本の絶滅の恐れのある野生生物」レッドリストブック・維管束植物編が、また、同年に北海道庁から北海道レッドリストが発行された。

えりも町内で確認している植物を、上記二レッドリストから整理した(表2.)。

1) 自然遺産として保護の必要な地域

えりも町にはレッドリストに記載されている絶滅の恐れのある植物は87種におよび、町村単位としては、非常に多いと考えられ、多様に富む生態系を有しているといえる。

この誇り高い自然をえりも町の自然遺産として

後世に引き継いでいくことは、生物多様性条約を批准している我国の使命の一つともいえる。そのためには、環境の世紀といわれている今日、えりも町民の認識を高める啓蒙活動など、自然を大切に思う思想が熟成されることが不可欠であり、かつ、それを

念願している。  
えりも町全域の豊かな自然が大切なことはもちろんであるが、とりあえず、固有種や分布限界植物・絶滅危惧種の多いニカンベツ川流域カンラン岩地帯、ルチシ岳・三枚岳・豊似岳・豊似湖周辺・アアツ川・庶野周辺・襟裳岬海蝕崖・丘陵地草原・百人浜草原湿地・黄金道路海蝕崖など貴重な植物の多い植生の保護の取り組みが早急に必要である。

<百人浜草原湿地の例>

苫別川からアアツ川の中の海岸草原は現在クロマツ林の造成が進められており、貴重な植物の生息地である小さな沼地のある湿原にまで造成作業が始まっている。このままでは、えりも町の大切な自然環境が消失することになる。この沼地と周辺湿地には次のような貴重な植物が生息している。

- ・北海道固有種：エゾイヌノヒゲ
- ・クリ型分布限界種：サワトウガラシ
- ・絶滅危惧種：エゾイヌノヒゲ・シコタンキンポウゲ・クロバナハンショウヅル・シコタンタンポポ・ヒメハナワラビ・ヒメハッカ・コハマギク・ホロマンノコギリソウ・ウスイロスゲ・ミズトンボ・トキソウ・イトモ・タチモ・コケスギラン・ハマナハヤスリなど

以上の他、アリノトウグサ・ウメバチソウ・モウセンゴケ・コケオトギリ・ミズオトギリなどの数多くの湿原特有な植物が生息している。

また、百人浜全体では貴重種にあげられるのは約50種におよんでいる。

(5) 「新版えりもの植物」の追加削除事項

追加削除については、表3. に記す。

(6) 参考文献

- 五十嵐博 (2001) 北海道の帰化植物便覧. 北海道野生植物研究所.
- 伊藤浩司 (1982) 北海道の高山植物と山草. 誠文堂新光社.
- 伊藤浩司ほか 北海道高等植物目録 (I. II. III. IV.) たくぎん総合研究所.
- 佐竹義輔ほか (1982~1993) 日本の野生生物 (草本 I. II. III.) 平凡社.
- 佐竹義輔ほか (1995) 日本の野生生物 (木本 I. II.) 平凡社.
- 清水矩宏・森田弘彦・高田伸七 (2001) 日本帰化植物写真図鑑. 全国農村教育協会.
- 清水健美、編 (2003) 日本の帰化植物. 平凡社.
- 高橋誼 (1979) 日高山脈の高山植物. 第一法規出版株式会社.
- 高橋誼・田中正人 (2003) アポイの高山植物と山草. pp167. アポイ岳ファンクラブ.
- 三浦忠雄 (1999) 新版えりもの植物. pp399. 新版「えりもの植物」出版実行委員会・えりも町教育委員会.

表3. 「新版えりもの植物」の追加削除事項

ページ	誤り	正
189	シラネアオイ・キンポウゲ科	シラネアオイ・シラネアオイ科
212	エゾホソバノトリカブト	種名・解説を削除。写真はヒダカトリカブト。エゾホソバノトリカブトは未確認。
228	クモギリソウの写真	写真はホソバノキノチドリと思われる。
290	ニワゼキショウ	ヒトフサニワゼキショウ <i>Sisyrinchium mucronatum</i> Michx. 清水健美編 (2003) によると、日本に帰化しているが、ニワゼキショウ属の分類は確立しておらず、学名については分類学的検討が必要とされている。
361	キンポウゲ科・シラネアオイ	シラネアオイ科・シラネアオイ
361	キンポウゲ科・シロバナシラネアオイ	シラネアオイ科・シロバナシラネアオイ
361	キンポウゲ科・エゾホソバノトリカブト	削除
359	タデ科・ウナギツカミ	削除
362	モクレン科・チョウセンゴミシ	マツブサ科・チョウセンゴミシ
376	記載なし	オミナエシ科 3チシマキンレイカ を追加
382	記載なし	エゾナミキソウ…374 を追加
391	ハルザキヤマガラシ…267 (青字)	ハルザキヤマガラシ…267 黒字に変更
392	ベニバナシャクヤク…190	削除
392	ベニバナヤマシャクヤク…362	ベニバナヤマシャクヤク…190